

# 7 詩1 作者の意図を読み取る

組	
番号	
氏名	

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

椰子の実

島崎 藤村

名も知らぬ遠き島より  
流れ寄る椰子の実一つ

故郷の岸を離れて  
汝はそも波に幾月

旧の樹は生ひや茂れる  
枝はなほ影をやなせる

われもまた渚を枕  
孤身の浮寝の旅ぞ

実をとりて胸にあつれば  
新なり流離の憂

海の日たぎの沈むを見れば  
激り落つ異郷の涙

思ひやる八重やへの汐々しおじお  
いづれの日にか国へ帰らむ

※汝：おまえ。きみ。

そも：それにしても。

浮寝：夜ごとに寝るところをか  
えること。

あつれば：当てれば

流離：郷里を離れて他国をさま  
ようこと。流浪。

激る：さかんにわき上がる。

八重：数多く重なっているこ  
と。

① われもまた渚を枕 / 孤身の浮寝の旅ぞとありますが、ここから「われ」は今どこにしていることが分かりますか。次の中から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 名も知らぬ遠き島。

イ 故郷を遠く離れた海辺。

② 「われ」は自分を何と重ね合わせていますか。詩の中の言葉を用いて二十字程度で答えなさい。

③ 異郷の涙とありますが、これとほぼ同じ心情を表す表現を詩の中から四字で抜き出ささい。